



Comfort Hearing みみよりNews

No.0022
13.11.01

ご挨拶

私達は科学文化の発展した社会で教育を受けることから文化的で最小限度の生活が保障されている日本国に住んでおります。同じ国内でも自分に責任がなくても家族と生活できない子供たちもおります。

特に発展途上国では貧富の差が大きく、弱い立場、身体障害の子供たちへは十分な手が差しおのばされていないようです。“途上国の難聴児に補聴器を贈ろう”との協力要請を受け、今年で17回目のキャンペーンをおこないました。



ワールド・コンサーン・バングラディッシュの本部
ヒアール・プログラム、マネージャー「サラム」さんと荒井先生



届けた補聴器のテスト風景 荒井真理子先生より

みみよりNEWS 第22号をお届け致します。
今後とも皆様方のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。
株式会社 中国補聴器センター 会長 福元儀智
尚、御意見・御指摘 E-mail でお寄せ下さいませようお願いいたします。

トピックス

【Ⅰ】聴覚医学会

【Ⅱ】ささやかな奉仕活動

【Ⅲ】「補聴器適正供給システム構築プロジェクト」
活動報告書を読んで

【Ⅳ】生活センター報告より

【Ⅴ】第36回補聴器研究会

みみよりNEWSのバックナンバーは当社ホームページでご覧いただけます。

ホームページ : <http://chg.jp>
E-mail fukumoto-y@chg.jp

ブログ : <http://chg.ldblog.jp>
ツイッター : <http://twitter.com/yoimimi>

【Ⅰ】聴覚医学会

第58回日本聴覚医学会総会・学術講演会が平成25年10月24日・25日の両日、信州大学医学部耳鼻咽喉科学講座、宇佐見真一教授の会長のもとホテルブエナビスタにて開催されました。

A・B・Cの3会場にて43群205演題が発表されました。補聴器業界に関連のある「補聴」は7群全35題でした。

〔演題36〕「我が国における補聴器の両耳・片耳装用に関する実態調査」（福澤理他）が発表された。アンケートを販売店300店に依頼し、両耳装用者3,000枚、片耳装用者3,000枚を配布している。聞こえの満足度は双方とも「まあまあ満足」以上が90%以上であったとの結果が発表された。・・・双方に差がなかった・・・「片耳でも良い」ことにならないか？

両耳の意味合いの出る設問をしなければ相違は出ないのではないだろうか？

〔演題40〕「試聴の記録による補聴器試聴時の主観的評価の検討」（大沼幸恵他）

ここで初回から決定までの期間は平均 2.57 ± 1.56 月であったと発表。

最短1ヶ月で最長4ヶ月。念には念を入れて反応を見る試聴ながら、少し期間が長すぎる様に感じた。

〔演題57〕「認知機能障害のある難聴高齢者に対する補聴器適合」（杉浦彩子他）は販売店にとって重要だと思った。

この他補聴器適合検査の指針に関して3演題があった。

【Ⅱ】ささやかな奉仕活動

1) 途上国の難聴児に補聴器を贈ろう

1995年より始めた「途上国の難聴児に補聴器を贈ろう」運動が、今回で17回となりました。2007年の12回目から佐渡市、新井真理先生を通じ、バングラディッシュ国の難聴児にお持ち頂いております。始めた頃はポケット型も多く、マスコミの協力によるPR放送を聞いたと中古品を多く頂きました。最近は、ほとんどが耳穴となり、耳かけ型も集まりが少なくメーカーさんのご協力が頼みの綱でした。今回はポケット型が無しでした。現地のFittingに参考となるよう一台ごとのデータをMOPや、Gainの特性を測定し添付した。

【支援内容】

補聴器

- ・耳掛け型 18台

（うち7台をスターキージャパン株式会社さんより寄贈いただきました）

部品など

- ・曲がりチューブ40ヶ ・耳栓80ヶ ・ポケット型用コード30本
- ・電池 単三電池（4本入り） 10パック
- 675電池（6粒入り）100パック
- 13電池（6粒入り）100パック

支援金ほか

2) 近年の国内奉仕活動

- 2011年 東日本大震災の被災児のため日本赤十字社に義援金贈呈
全日本難聴者・中途失聴者団体連合会・東北支部に義援金贈呈
被災地関画マスク1,500枚
米子市聖園天使園の子供たちへオープンレンジ1台
- 2012年 鳥取こども学園の子供たちへキャンプ用品、ミシンなど
岡山かなりや学園の子供たちへ空気電池3,000粒
- 2013年 松江市 児童養護施設 双樹学園へサッカー用ユニフォーム15組

【Ⅲ】「補聴器適正供給システム構築プロジェクト」活動報告書を読んで

平成25年9月、テクノエイド協会、日本補聴器工業会、日本補聴器販売店協会、日本補聴器技能者協会の4団体によるプロジェクトチームでまとめられた表記の報告書が発表された。膨大な報告書で資料編17ページを含む37ページに及んでいる労作です。

I：目的は3点（要訳）

認定技能者を設置義務化するよう諸官庁に要望する。

要望根拠となる市場実態調査をする。

調査報告書は厚生労働省に提出。（適正な環境で販売するための要望）設定者の設置義務化に活用する。

プロジェクトは平成23年11月から平成25年3月までに計9回の会合をおこなった。

毎回、4団体の最高責任者グループから参集されるのは15名程度である。

II：集められた資料

売店数に関する調査で総販売店数は6,877（推定）店である。

これを専業店1,286店（18.7%）、兼業店5,591店（81.3%）と分け、さらに養成制度への参加店2,379店（34.6%）と未参加店4,495店（65.4%）と集計された。

高齢難聴者数を都道府県別に試算して示した。都道府県の人口、また65才以上の高齢者人口は統計発表されている。難聴者推定はこの53%であると発表されている。これによると鳥取県約81,000人、島根県約110,000人、岡山県約257,000人。これにより販売店数の「1店舗当たりの難聴者数」を算出した。平均では2,867.8人。今後更に増加する事から「適正な販売の在り方」をより周知徹底することが重要である、としている。

所感

適正供給とは？

資料を含め、37ページの中にこの大命題に関して素通りしている。適正供給の為に資格制度、認定技能者を養成した。しかし、講義実習の中に何が適正供給であり、何が「不適正供給」なのか、触れられていない。合格者、資格者はなんとなく解った様な気持ちではないだろうか。適正供給とは満足度の高いもの、難聴の不自由さを緩和させる補聴器。自分の耳の中だけ音量を大きくする補聴器は使いやすくして身体的負担の小さい事だろうが...

【Ⅳ】生活センター報告より

国民生活センター苦情・相談分析。（社）日本補聴器工業会による

2012年4月から2013年3月の間、補聴器に関する国民生活センターに寄せられた苦情と相談を分析した報告表を頂いた。聞くところでは、センターからは紙情報でもらい、これをデータ化された労作です。

1) 年次推移

総相談件数は、2000年度を100とすると2012年度は418と増加している。昨年と比べても8%アップ。

2) 購入ルート別 苦情（総数：445件）

苦情「返品・解約」279件 「調整・修理」69件 「その他」97件

返品・解約279件と最高。ルート別は下記の通り。

店舗	167件	60.0%	病院・Dr.紹介	15件	5.4%
訪販・展示会	47件	16.8%	通販	42件	15.0%
他	8件	2.8%			
			計	279件	100.0%

この様に60%が店舗販売であり、訪販・通販の合計より多い。

3) 返品理由

補聴器装用感	158件	57%
価格	38件	13%

装用感にまとめられているが補聴器の効果であろう。

相談者が本人、家族ともに昨年より増加している。

4) コメント集から

価格に関して 7項目 販売方法に関して 24項目

これら全て、販売者に責任があるとは思えないが、その言い分は適正供給の姿とは云えないものが多かった。また、説明不足と思われるもの、お客さま、それはちょっと!! と云いたくなる項目もあり、ユーザーの勘違いもあり、説明責任の重大さを思い知りました。

5) 適正供給とはここに示された苦情・返品の無いことと考えたい。そのためには業界は、何が必要か!! 真剣に討議集約して欲しい。

【V】第36回補聴器研究会

学会終了後16:30~18:30まで代表世話人の岡本牧人：北里大学教授の挨拶で開始されました。プログラムは下記の通り。

座長：立入 哉

- 1.乳幼児の補聴器装用にかかわる保護者支援
～装用開始から両耳装用の段階を中心に～
庄司和史（信州大学全学教育機構教職教育部）

座長：細井裕司

- 2.骨導補聴器の両耳装用における方向知覚－交叉聴取による影響－
松山秋絵（九州大学芸術工学府芸術工学専攻）
白石君男（九州大学大学院芸術工学研究院デザイン人間科学部門）

座長：岡本牧人

- 3.両耳軟骨伝導音による音像定位と両耳装用型軟骨伝導補聴器の開発
下倉良太、細井裕司、西村忠己（奈良県立医学大学耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座）
岩倉行志（リオン株式会社）

座長：廣田栄子

- 4.新生児聴覚スクリーニング検査後難聴診断児の乳幼児コミュニケーション
発達質問紙による検討
進藤美津子（東京医療センター・臨床研究センター、上智大学）
玉井ふみ（県立広島大学保健福祉学部）
加我君孝（東京医療センター・臨床研究センター）

座長：小寺一興

- 5.補聴器の両耳装用に関する機能等について
成沢良幸（日本補聴器工業会）
- 6.我が国における両耳装用補聴器の供給に関する実態調査
木村修造（日本補聴器工業会、両耳装用補聴器の供給に関するガイドライン検討会）



CHG
コンフォート補聴器グループ
株式会社中国補聴器センター

ホームページ <http://chg.jp>